

能登半島地震特集

地域を守る！

▶被災者の支援

災害時に支援する

004

パートナー連携などを活用した 能登半島地震における 被災地への多岐にわたる支援

取組主体

認定特定非営利活動法人カタリバ

従業員数

想定災害

実施地域

157 人

全般

全国

過去災害の支援経験を生かし、2024 年 1 月に発生した能登半島地震において民間企業や地域団体、行政などと連携し、子どもやその保護者、教職員に対する様々な支援活動を展開した。

1 取組の概要

- ・キャリア学習・探究学習プログラムの開発・提供、子どもへの居場所提供・学習支援、高校や行政と協働した教育魅力化コーディネートなどの事業を行っている教育 NPO である認定特定非営利活動法人カタリバは、2011 年に発生した東日本大震災や 2016 年に発生した熊本地震などにより被災した地域において、主に 10 代の若者に対する心のケアと居場所づくり、学習機会を提供してきた。
- ・2024 年 1 月に発生した能登半島地震では、これまでの支援にとどまらず支援の幅を大きく広げた活動を実施した。具体的には、全国から寄せられた寄付金を活用して、被災した中学 3 年生、高校 3 年生などに対し受験にかかる費用を補填する「カタリバ 受験応援奨学金（給付型）」を実施したり、過去の災害時に実施してきた子どもたちがストレスなく過ごせる居場所づくりを地域団体などと連携し、「みんなのこども部屋」「みんなの勉強部屋」として石川県内各地の計 7 自治体 12 か所に開設したり、卒業式・始業式に着用する礼服の提供や新たに能登へ着任する教職員の居住スペースを確保し被災地の教職員を支援する「被災地の先生応援プロジェクト」などを実施した。そのほかにも、衣類・衛生用品、学習教材・文具、車両などの幅広い物資の提供・貸与や、学校再開に向けた暖房備品・灯油の提供、被災地で活動するボランティアの派遣など多岐にわたる支援を、民間企業や石川県内の自治体と連携し行った。
- ・上記が実現できた背景の一つには、同法人が平時から行政や民間企業、NPO とアライアンスを締結し、災害時にアライアンスパートナーと共に子どもを支援する体制「sonaeru（ソナエル）」の構築がある。アライアンスを平時から組んでおくことで、災害時にセクターを越えたスムーズな連携を可能とし、災害時の迅速な支援を開始できる仕組みをつくっている。



子どもの居場所「みんなのこども部屋」の様子

被災者に届けた生活用品 学校再開に向けて届けた暖房備品

2 取組のきっかけと想い

- ・同法人は、2001 年の設立時から、10 代の若者に向けて居場所と学びの機会を提供している。東日本大震災において、被災地の子どもたちが安心して思いきり学べる場所を提供するために被災地での活動を開始した。その後、熊本地震や西日本豪雨災害においても、主に中高生の心のケアと居場所づくり、教育行政・高校支援を実施してきた。そうした経験を踏まえ、能登半島地震においても本取組を実施している。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

被災者を居場所運営スタッフとして雇用

- ・地域団体と連携し行った「みんなのこども部屋」「みんなの勉強部屋」では、復興事業において被災者を一時的に雇用し、賃金を支払うことにより地域内での復興を促進させ、被災者の自立を支援する手法である「キャッシュ・フォー・ワーク」に基づいて、被災者でもある現地在住者を運営スタッフとして雇用した。

平時からの支援体制構築による災害時の迅速な支援の展開

- ・同法人が災害発生時に多様な支援を素早く展開できる背景には、「sonaeru」という独自の支援体制がある。これは、行政、民間企業、NPO と平時からアライアンスを締結し、災害時の支援内容や役割分担を具体的に取り決めておく仕組みで、平時から各パートナーとの定期的な協議を重ね、それぞれが提供できる人材、物資、資金などの支援リソースを明確にしている。これにより、発災直後に同法人が実施する被災地におけるニーズ調査に基づき、必要な支援と各パートナーの支援リソースを迅速にマッチングし、被災地における支援活動を迅速に開始することを可能としている。

4 取組の効果

多くの子どもたちによる利用

- ・「みんなのこども部屋」や、同法人が設置した夏休みの居場所は、延べ 5,000 人以上の子どもたちに利用され、多くの子どもたちに対する安心できる居場所の提供を実現した。

被災者の一時雇用による生活再建への貢献

- ・被災地の復興支援として「キャッシュ・フォー・ワーク」に基づいて、現地住民に短期的な就労機会を提供し報酬を支払うことで、被災者の生活再建にも寄与した。

周囲の声

- ・「友達が一杯できて、いろんなイベントもあってよかった。遊ぶ所が限られているから、これからもこういう居場所があったらいいと思う」（支援を受けた被災地の子ども）
- ・「被災後、私の子どもは、直接不安やストレスを伝えてくることはないものの、おう吐が続くなど身体的な症状が出ている状態でした。しかし、お兄さん・お姉さんたちに遊んでもらえる『みんなのこども部屋』に通うようになってからは、笑顔を見せるようになりました」（支援を受けた被災地の子どもの保護者）
- ・「高3の息子が震災の影響で進学を諦めようとしていたところ、カタリバの奨学金を活用させてもらい、息子の背中を押してもらえました」（受験応援奨学金利用者）

担当者の声

- ・災害支援を行う際は、「被災者との対話」と「復旧・復興の主役はその土地の人々であることを忘れずに取り組むこと」を大切にしています。被災者との対話から支援のニーズやその方々の状況について理解を深め、被災した方々のその後の生活も見据えた支援や関わりを行うことを意識して支援活動に取り組んでいます。
- ・また、多くの人に被災地の子ども達の現状や課題を伝えていく広報活動も重要です。今回の支援においては、「能登の現地状況や被災した子どもを取り巻く課題を伝える」とことと、「災害時の子ども支援の必要性を広く認知してもらう」ことを大切に、当団体内の広報チームと連携しながらプレスリリースの発信や被災地支援ウェブサイトでの情報発信を行い、認知向上に努めています。

問合せ先

認定特定非営利活動法人カタリバ 法人番号：9011305001707
 電話番号：03-5942-9646 FAX：03-5942-9647
 URL：https://www.katariba.or.jp/

動画

—

サイト URL

